

大学コンソーシアムひょうご神戸
2025 年度 第 1 回 国際交流委員会 議事録

日 時：2025 年 4 月 30 日(水) 10:00～11:09

開催場所：兵庫国際交流会館 1F Nadacom Station

出席校：【委 員 長】	兵庫県立大学	横山教授、八木課長
【副委員長】	神戸市外国語大学	中嶋センター長、壽谷係長
【委 員】	明石工業高等専門学校	水野センター長
	芦屋大学	田口氏
	関西国際大学	戸梶課長（代理出席）
	関西学院大学・関西学院短期大学	長谷機構長補佐、鳥山次長
	甲南女子大学	岩崎センター長、松井課長
	神戸大学	木村課長
	神戸市看護大学	神原教授
	神戸女学院大学	高地課長
	園田学園大学	安川課長
	兵庫大学・兵庫大学短期大学部	上田課長代行
	流通科学大学	辻准教授、上田氏
陪席：	兵庫県立大学	中山主任

（欠席校：大手前大学、大手前短期大学、関西福祉大学、甲南大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、芸術文化観光専門職大学）
（コンソ事務局：鈴木、慈、玉置）

I. 報告事項

1. 2025 年度国際交流委員会委員校について (資料 1)
各委員校の国際交流事業の状況、取り組み事例等の共有（自己紹介も兼ねて）
2. 第 22 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム (2025 年兵庫県開催) について (資料 2)
3. BOSAI コミュニケーションカード開発企画進捗について (資料 3)
4. 四機関連携協定（大学コンソーシアムひょうご神戸、JICA 関西、HIA（兵庫国際交流協会）、JETRO 神戸（日本貿易振興機構）について (資料 4)

II. 協議事項

1. 2025 年度国際交流委員会事業計画（案）について
①兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業について (資料 5)
②学生海外派遣プログラムについて（神戸常盤大学・兵庫大学）

III. 懇談事項

「2025 年ミャンマー地震」への支援について

IV. 連絡・調整事項

1. 2025 年度の国際交流委員会開催日程
第 2 回委員会 9 月：2025 年度 タイプ 3 プラットフォーム型申請に向けた実績と自己評価（案）
第 3 回委員会 12 月：2025 年度 自己評価（案）
第 4 回委員会 2 月：2025 年度 事業計画・予算案（案）

2. その他情報提供

以上

<資料一覧>

- 【報告1】（資料1-1）2025年度 国際交流委員会名簿
- 【報告1（参考）】（資料1-2）事業委員会の運営に関する申し合わせ
- 【報告2】（資料2）第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2025年兵庫県開催）について
- 【報告3】（資料3）BOSAI コミュニケーションカード チラシ
- 【報告4】（資料4-1）2024年度三機関連携協定報告書、2025年度四機関連携協定事業計画
- 【報告4】（資料4-2）2025年度四機関が連携可能な事業一覧
- 【協議1】（資料5-1）2025年度 国際交流委員会事業計画（案）
- 【協議1（参考）】（資料5-2）2025年度 国際交流委員会事業予算
- （参考資料）2024年度第5回国際交流委員会メール審議結果

【I. 報告事項】

- 1) 2025年度国際交流委員会委員校について
各委員より、自己紹介も兼ねて国際交流事業の状況、取り組み事例等の紹介があった。
- 2) 第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（2025年兵庫県開催）について
慈事務局員より、資料2に基づき、第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムで、国際交流委員会が担当する学生ステージに参加する大学と内容の紹介があった。芦屋大学の留学生によるコーラン朗詠、二胡演奏、流通科学大学の留学生によるダジャン（正月）の踊りを発表することに決定した。
- 3) BOSAI コミュニケーションカード開発企画進捗について
慈事務局員より、資料3に基づき、BOSAI コミュニケーションカード開発企画の申込状況報告があった。申込者は16名で、内訳は日本人学生が14名、留学生2名。また16名のうち11名が主催である神戸学院大学生。参加学生の国籍と大学の多様性を増やすため、委員校各位への学生募集依頼があった。
- 4) 四機関連携協定（大学コンソーシアムひょうご神戸、JICA 関西、HIA（兵庫国際交流協会）、JETRO 神戸（日本貿易振興機構））について
慈事務局員より、資料4に基づき、2024年度に締結した三機関連携協定にJETRO 神戸（日本貿易振興機構）が加わり、2025年度より四機関連携協定を締結することについて報告があった。

II. 協議事項

- 1) 2025年度国際交流委員会事業計画（案）について
 - ①兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業について
 - ②学生海外派遣プログラムについて（神戸常盤大学・兵庫大学）
慈事務局員より、資料5に基づき、兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業と神戸常盤大学の学生海外派遣プログラムについて説明があり、続いて兵庫大学上田課長代行より、追加資料に基づき、兵庫大学から加盟校に開放される学生海外派遣プログラムについて説明があった。意見交換の後、全員異議なく承認された。

<主な意見等>

兵庫大学の学生海外派遣プログラムについて

- ・加盟校に対する募集方法はどうなっているか。
- 夏にウェブサイトにて公開、グーグルフォームにて申込を受け付ける。加盟校への周知も同時期に行う。
- ・兵庫大学の学生海外派遣プログラムは、兵庫大学とハワイパシフィック大学との既存の交流の上に成り立

っているのか。

→兵庫大学の教員がハワイパシフィック大学でボランティアする等のつながりがある。

・最少催行人数 12 人とあるが、応募が多い場合は抽選か。

→1 名程度の増減は対応できるが、それ以上の応募の場合は抽選となる。

・参加費はおおよそどのくらいか。

→50 万円程度。

・来年度以降も継続するのか。

→継続的に実施を検討する予定である。

III. 懇談事項

「2025 年ミャンマーの地震」への支援について

鈴木次長より、理事長代行の中井学長から、各大学の「2025 年ミャンマー地震」への支援について検討できないかとの依頼があった旨の説明があり、意見交換が行われた結果、国際交流拠点推進事業の枠組で必要に応じて学生をサポートし、学生が主体となってミャンマー地震について何ができるか考え実行していくという提案があった。

<主な意見等>

- ・ミャンマーの被災留学生については教育後援会から支援金の対応をしている。
- ・学内委員会が中心となり募金活動を展開している。
- ・学内で呼びかけている募金に対して他大学からも募ることについて、すぐに判断はできない。
- ・自学ではミャンマー留学生が少なく、目立った動きがない。寄付金の在り方について、支援に速さが必要な場合、各大学で動けるところから動いていくというほうが良いのではないか。
- ・自大学は災害看護学会の組織委員会で募金をしているため、大学としては特に動いていない。防災関係の NPO ではミャンマーからの研修生がおり、母国のために何かしたい学生がいる。そういった学生に向けてメンタルヘルスなどの研修をしてほしいという要望があった。ミャンマーからの留学生を含め日本にいる学生が、被災状況を学び、今できることを一緒に考えるというのが一番早くできることではないか。

IV. 連絡・調整事項

1) 2025 年度の国際交流委員会開催日程

慈事務局員より、2025 年度の国際交流委員会開催日程の連絡があった。

2) その他情報提供

鈴木次長より、各種チラシ（以下）をもとに今後開催予定のプログラムについて紹介があった。

- ・G-Navi プログラム 留学生向け合同説明会ツアー Let' s GO-SETSU
- ・G-Navi プログラム 英語村
- ・G-Navi プログラム 神戸大学グローバル教育センター主催 就活のための日本語講座
- ・こうべランゲージ支援員募集
- ・播磨町 外国籍児童への支援サポーター募集
- ・SIIEJ 国際教育夏季研究大会 2025 開催案内
- ・(株) eftax SUGEE Housing、Halodish

以上をもって、第 1 回国際交流委員会の議事は終了した。